

# 带状疱疹ワクチン予防接種説明書

## 1. 带状疱疹とは

带状疱疹は、過去に水痘にかかった時に体の中に潜伏した水痘带状疱疹ウイルスが再活性化することにより、神経支配領域に沿って、典型的には体の左右どちらかに带状に、時に痛みを伴う水疱が出現する病気です。合併症の一つに皮膚の症状が治った後にも痛みが残る「带状疱疹後神経痛」があり、日常生活に支障をきたすこともあります。带状疱疹は70歳代で発症する方が最も多くなっています。

## 2. 対象者

- ① 年度内に65歳を迎える方
- ② 60～64歳でヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害があり日常生活がほとんど不可能な方。
- ③ 年度内に70、75、80、85、90、95、100歳となる方

◎過去に带状疱疹に罹患した方でも、対象年齢であれば定期接種対象となります。

◎過去に自費での带状疱疹ワクチンの接種を完了している人は対象外となります。接種を希望する場合はよくご確認ください。

## 3. 接種に必要な物

- (1) 「接種券兼接種済証」及び「带状疱疹ワクチン定期予防接種予診票」（緑色の紙）
- (2) 自己負担金 生ワクチン：4,200円 不活化ワクチン：1回につき11,000円  
(生活保護世帯は無料)
- (3) マイナンバーカードなど住所・年齢などが確認できるもの

## 4. 带状疱疹ワクチンの効果

带状疱疹ワクチンには生ワクチン（阪大微研：乾燥弱毒生水痘ワクチン「ビケン」）、不活化ワクチン（GSK社：シングリックス）の2種類があり、接種回数や接種方法、接種スケジュール、接種条件、効果とその持続期間、副反応などの特徴が異なっていますが、いずれのワクチンも、带状疱疹やその合併症に対する予防効果が認められています。

	生ワクチン（阪大微研）	不活化ワクチン（GSK社）
接種回数（接種方法）	1回（皮下に接種）	2回（筋肉内に接種）
接種スケジュール	—	通常、2か月以上の間隔を置いて2回接種 ※病気や免疫により、免疫の機能が低下したまたは低下する可能性のある人は、医師が早期の接種が必要と判断した場合、接種間隔を1か月まで短縮できます。
接種できない方	病気や治療によって、 免疫が低下している方は接種できません	免疫の状態に関わらず接種可能です。
ワクチンの種類別 接種に注意が必要な人	輸血やガンマグロブリン注射を受けた人は治療後3か月以上、大量のガンマグロブリン療法を受けた人は治療後6か月以上置いて接種してください。	筋肉内に接種をするため、血小板減少症や凝固障害を有する人、抗凝固療法を実施されている人は注意が必要です。

◀ 裏面も必ずご覧ください ▶

## 5. 予防接種を受けることができない人

- ① 明らかに発熱している人（通常、体温が37.5℃以上の場合）
- ② 重篤な急性疾患にかかっている人  
急性で重篤な病気薬を飲む必要のある人は、その後の病気の変化がわからなくなる可能性があるため、その日は接種を受けないのが原則です。
- ③ 予防接種液に含まれる成分で、アナフィラキシーを起こしたことが明らかな人  
「アナフィラキシー」とは、通常接種後約30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。発汗、顔が急にはれる、全身にひどいじんましんが出る、吐き気、嘔吐、声が出にくい、息が苦しいなどの症状が出る激しい全身反応です。
- ④ 過去に帯状疱疹ワクチンの接種を完了している人
- ⑤ その他、医師が不適当な状態と判断した人

## 6. 予防接種を受けるときに、医師と相談しなければならない人

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気、その他慢性の病気で治療を受けている人
- ② 過去に予防接種後2日以内に発熱、発しん、じんましん等アレルギーと思われる異常が見られた人
- ③ 今までにけいれんを起こしたことがある人
- ④ 免疫不全の診断を受けたことがある人、近親者に先天性免疫不全の人がいる人
- ⑤ 帯状疱疹ワクチンの成分に対して、アレルギーを起こすおそれのある人

## 7. 予防接種を受けた後の一般的注意事項

- ① 予防接種を受けたあと30分間程度は、急激な副反応が起こることがあります。医療機関（施設）で様子を観察するか、医師とすぐ連絡を取れるようにしておきましょう。
- ② 入浴は差し支えありませんが、注射した部位を強くこすことはやめましょう。
- ③ 接種当日は、はげしい運動や大量の飲酒は避けましょう。
- ④ 予防接種後、まれに副反応が起こることがあります。また、予防接種と同時に他の病気が偶然重なって現れることもあります。予防接種を受けた後、接種した部位が痛みや熱をもってひどくはれたり、全身のじんましん、嘔吐、顔色の悪さ、低血圧、高熱などの症状が現れた場合は、早めに医師の診察を受けてください。

## 8. 予防接種を行うことができない時とは

- ① 接種医の説明を十分に聞いたうえで、接種を受ける本人が接種を希望しない場合。
- ② 家族やかかりつけ医の協力を得ても、接種を受ける本人の意思が確認できなかった場合。

## 9. 再接種について

帯状疱疹ワクチン予防接種を受けることで5～7年以上免疫が持続するといわれていますが、再接種を希望される場合は、ご自身の予防接種の履歴をよく確認し、その必要性を慎重に考慮したうえで、かかりつけ医にご相談ください。（再接種は任意で行うものであり、全額自己負担となります。）

今回接種を行った場合は、医療機関から渡される「接種済証」を必ず大切に保管してください。

## 10. その他

■ 本予防接種は、B類疾病の予防接種であり、接種を受ける法律上の義務はありません。自らの意思で接種を希望する人のみに接種を行うものです。接種を希望する人は、予防効果や副反応などについて、十分に理解したうえで、医師と相談し接種してください。

■ 接種券の有効期限は、令和9年3月31日までです。期限を過ぎて接種する場合は、接種料金が全額自己負担となりますのでご注意ください。